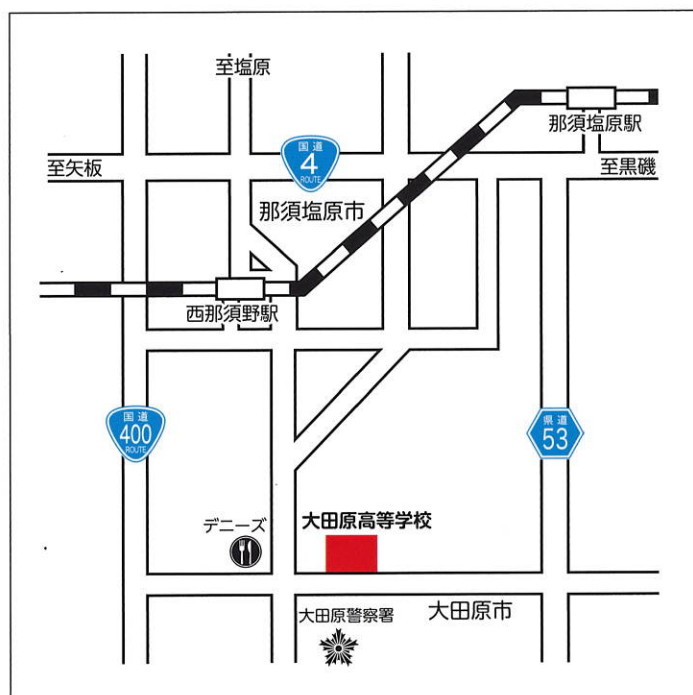




栃木県立大田原高等学校

〒324-0058 栃木県大田原市紫塚 3 丁目 2651 番地
TEL 0287-22-2042 FAX 0287-23-9691
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/otawara/nc3/>
MAIL otawara@tochigi-edu.ed.jp



ホームページQRコード

質素堅実



2023 栃木県立大田原高等学校

大田原高校で学ぶということ

—大高の理想—

質 素 堅 実

その意味するところは「表面を飾らず内面を磨くことであり、学問を深めながら心身を鍛練し謙虚で友情に厚く、本物の勇気を持つこと」である。初代尾河鐵太郎校長が定めたこの校訓は、一世紀以上の永きに亘り、本校で学ぶ若人の精神的支柱となって受け継がれている。

教育目標

- 真剣に学習に取り組み、豊かな創造力と正しい判断力を養う
- 心身を鍛練し、不屈の精神と逞しい実践力を養う
- 自他を敬愛し、感謝の心と奉仕の態度を養う
- 規律と責任を重んじ、協同・連帯の精神を養う

上に掲げた教育目標は、第19代堀内肖吉校長が昭和55年度に制定したものである。堀内校長は教員としては本校剣道部が全国制覇したときの監督であり、校長として就任後、校訓「質素堅実」にふさわしい学校行事の必要性を説かれ、85キロ強歩の基を築いた校長である。

目指す学校像

校訓「質素堅実」のもと文武両道の実践を目標に掲げ、学習と部活動の両立や生徒会活動等に積極的に取り組むことをとおして、未来を力強く切り拓くとともに、社会の発展に貢献できる逞しいリーダーを育成する学校



教育実践

1 「心」をみがこう、そして「命」を大切に

本校は入学生のほとんどが大学進学を考えている進学校であり、日々の活動の中心は学習である。従って進路や受験を考えることはとても大切だが、その前に人としての正しい判断や正しい行いを自然に実践できることは、それ以上に大切である。諸君は心の中に、自分の行動を見つめるもう一人の自分の存在に気付いているだろうか？ それを「自我」と言ったり「心の鏡」と言ったりする。高校時代は、正義感や勤労観、奉仕の精神、感謝の心、克己心、友情など倫理的に価値あるものを自分の中に獲得しながら自我を確立する時期である。我々大高の教職員はそうした時代のまっただ中にある諸君に接していることを自覚しながら、時には厳しく、愛情をもって諸君が人間的に成長することを願いながら日々指導することを心かけている。さて、勉強より大切な心の教育だが、それよりも大事なことがある。それは命を大切にすることである。平成29年3月に本校は大切な7名の生徒と1名の教員のかけがえのない命を雪崩事故で失ってしまった。平成31年1月には卒業目前の3年生が信号無視の車にはねられて尊い命を奪われてしまった。こうした事故を教訓として、我々教職員は登下校を含めたあらゆる教育活動の中で決して生徒や職員が命を失うことのないよう、安全対策と安全教育に最大限の力を注いでいる。また、感染症対策を含め、予測不能な現代社会において、予見できるリスクを洗い出し、その対応策を検討、実施することで、安全・安心な学校づくりに取り組んでいる。

2 高校時代は人生の岐路を迎える時期、将来を展望する視点を生徒に養う

本校は普通科高校である。普通科では高校卒業までの三年間に将来進む方向や職業を選択し、その方向や職業に向かう「進路」を実現させるために大学を選択することになる。この選択は人生の中でも大切な選択であるから、本校では学年に応じた指導計画の中で、大学卒業後の人生も見据えた人生の設計図を描けるよう指導している。

これまでの15年とこれからの15年では、選択肢の数や選択の重みが全然違う。進学、就職など、人生を大きく方向付ける決定が目白押しの15年である。そこでこうした重要性に鑑み、本校ではキャリア教育に力を入れている。卒業生には国内外で活躍している先輩が多数存在している。こうしたOBをキャリアモデルとして活用しながら、様々なプログラムを用意している。

3 将来に備えることは大切であるが、青春時代の今を濃く熱く生きることにも意味がある

受験勉強は将来に備える大切な学習だが、高校の三年間は生徒一人ひとりにとって人生で一度きりの特別な時間である。この多感な高校時代に、勉強だけでなく部活動や学校行事に打ち込むことで、机の上の勉強だけでは学べない、友情・協調性・粘り強さ・リーダーシップなど、たくさんの得難いものを得ることができる。我々大高の教職員は生徒達の「今」も「将来」と同様に大切であると考え、部活動への参加を奨励し、学校行事の充実とその企画運営を生徒が中心になって行うということに心を砕いている。

また、克己心を養うための伝統行事に85キロ強歩と寒稽古がある。自分の中の弱さに向き合い、それを克服するという経験はその後の人生に必ず活かせるものである。入学して、本校ならではのこうした行事に向き合って欲しい。

■大高3年間の文理選択型カリキュラム

生徒一人ひとりの進路実現を目指します。

令和6（2024）年度入学生の例

1年共通	現代の国語(2)	言語文化(3)	歴史総合(2)	公共(2)	数学Ⅰ・A・Ⅱ(6)	物理基礎(2)	生物基礎(2)	体育(2)	保健(1)	芸術(2)	英語コミュニケーションⅠ(4)	論理・表現Ⅰ(2)	家庭基礎(2)	SSRⅠ(1)	LHR(1)
2年文型	論理国語(2)	文学国語(2)	古典探究(2)	世界史探究/日本史探究(2)	地理総合(2)	数学Ⅱ・B・C(6)	化学基礎(2)	生物概論(2)	体育(3)	保健(1)	英語コミュニケーションⅡ(4)	論理・表現Ⅱ(2)	情報Ⅰ(2)	SSRⅡ(1)	LHR(1)
2年理型	論理国語(2)	古典探究(2)	地理総合(2)	数学Ⅱ・B・C(6)	物理/生物(3)	化学(3)	化学基礎(2)	体育(3)	保健(1)	英語コミュニケーションⅡ(4)	論理・表現Ⅱ(2)	情報Ⅰ(2)	SSRⅡ(1)	LHR(1)	
3年文型	論理国語(2)	文学国語(2)	古典探究(3)	世界史探究・世界史考察/日本史探究・日本史考察(6)	政治経済(3)※	応用数学α・β(5)※	科学概論A/B(3)※	体育(2)	英語コミュニケーションⅢ(4)	論理・表現Ⅲ(2)	SSRⅢ(1)	LHR(1)			
3年理型	論理国語(2)	古典探究(2)	地理探究(4)	数学Ⅲ(5)	数学C(3)	化学(4)	物理/生物(4)	体育(2)	英語コミュニケーションⅢ(4)	論理・表現Ⅲ(2)	SSRⅢ(1)	LHR(1)			

3年文型の※について、公民、数学、理科の代わりに芸術、家庭、体育、英語、国語から科目を選んで学習することもできます。

SSH (Super Science Highschool) 活動



令和元(2019)年度文部科学省指定!! 研究開発期間: 2019年度~2023年度(5年間)
研究開発課題名: 志と科学的リテラシーを育む文理融合型課題研究の開発
— Inspiration through Perspiration —

大高のSSH(開発型)事業

目的: 社会構造の急速な変革が進展する中、社会の持続的な成長と発展への志を持ち、国内外を問わず科学技術分野で新しい価値を創造・発信できる人材を育成する

3年間の取組み

1 学年 社会問題啓発プログラム
課題研究ガイダンス I
課題研究計画書審査会

2 学年 課題研究ガイダンス II
課題研究中間発表会
課題研究成果発表会

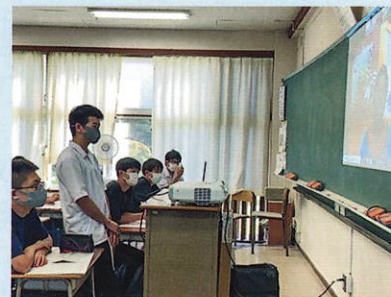
3 学年 課題研究の英語まとめ
課題研究英語発表

社会問題啓発プログラム

新聞の見方、持続可能な開発目標 SDGs の学習、有識者による講演、アジア学院研修生との交流などを通して、社会問題に対する興味関心、課題発見能力を養うプログラムである。



ワークショップ「新聞で読む」



アジア学院交流

課題研究プログラム

社会問題啓発プログラムでの学習を基に、身の回りの課題を発見し、その課題解決に向けて研究し発表する能力を養っていくためのプログラムである。



日々の活動のようす



中間発表会



筑波研究施設見学会 (KEK)

ICT活用能力育成プログラム



Zoom (Web 会議システム) の利用

SSCの活動

課外活動でより深く学びたい生徒は、SSC (スーパーサイエンスクラブ) で科学を追究していく。



飯舘村実地研修



わくわくドキドキサイエンス

多様な学習環境の提供

■入学直後からの学習習慣の確立

入学して間もない1年生が安心して学習に取り組めるように初期指導が行われる。教室から体育館に机とイスを運び入れ、国語・数学・英語の教員から予習・復習など学習の仕方を具体的に学ぶ。

■ICTを利用した教育活動の推進

各教室に電子黒板を設置し、生徒の興味関心を刺激する授業実践に努めている。また、オンライン (Zoom) により諸行事を実施し活動の幅を広げている。

■早朝・放課後の学習の推奨

本校では朝の学習と居残り学習を推奨している。多くの生徒が朝早くから登校し学習に取り組む一方で、放課後は夜7時まで開放されている図書室や進路指導室で黙々と机に向かっている。

■土曜開放と長期休業中の課外

月1~2回の土曜日に学校を開放し、生徒が自主的に学習に取り組める環境を提供している。また、夏季休業中には課外授業を実施し、1,2年生は国語・数学・英語の3教科を中心に、3年生は地歴公民・理科を中心に、塾に頼らなくとも受験に対応できる学習サポートを行っている。3年生については平日の放課後にも課外授業を実施している。

■面談等のサポート体制

本校では生徒との個人面談に力を入れている。クラス担任だけでなく、副担任、教科担任、チューター等による面談を、年間を通して複数回実施している。学習、生活、進路等について、生徒の話をじっくりと聞き、的確なアドバイスをサポート体制が整っている。



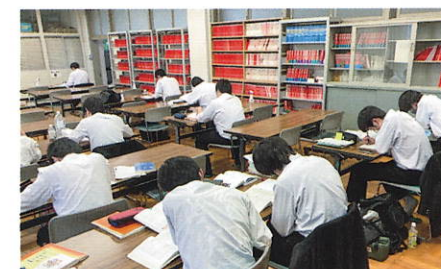
初期指導



ICTを活用した授業



職員室前学習コーナー



居残り学習



土曜開放



個人面談

VOICE



初期指導で学んだこと

1 年 星野 太杜

私は、初期指導で、高校の学習が中学とはまるで違うことを実感しました。大学受験では求められる知識量は高校受験より格段に多いことや、中学校ではあまり求められなかった予習が大高では必須であることを学びました。だから、大高での勉強に「大変そう」といった印象を抱きました。それでも、初期指導で先生から教えて頂いた、予習ノートの作成や数学の毎日の復習をコツコツと続けました。着実に自分の実力になっていると実感することができました。今回の初期指導で学んだ基本的な学習法をこれからも継続していきたいと考えています。



ICTを活用した授業を受けて

1 年 高野 秀真

私はICTを活用した授業を受け、これからの時代の「あたりまえ」とどのように付き合っていくかが重要になってくると感じました。ICTの導入は小学校高学年の頃から聞いており、実際に始まったのは中学校です。いままでの板書をノートに移すという作業が減ってより効率的に学習が進み、そしてここ大高では電子黒板も整備され、よりスマートな授業へと発展しました。ここで私たちに求められるのは「この素晴らしい環境をいかに活用するか」だと思います。少し前までは想像もできなかった授業が今は当たり前に行われていることから、変化の著しい時代を生きていることを実感します。そして、今後も新しい「あたりまえ」に対応できる力を身に付けていきたいです。

教科指導

国語科

『読解』から『表現』へ。確かな力を身につける

3年間を通して、「さまざまな文章を的確に読み取る力」、「自分の考えを適切に表現する力」を伸ばすことを目標とする。2年次までの基礎力の完成を目指し、漢字テストや古文単語テスト、助動詞テストなどを行う。また、読書を通して多くの視点に触れさせ、内省する態度を涵養する。3年次は大学入試に向け、記述力の充実を図り、実践的な演習を行う。小論文については、生徒一人ひとりに応じた個別指導を行う。



地歴・公民科

知識・技能をもとに考察する

地歴・公民科では、基本的な知識・技能を身に付けることが重要だと考え、授業の中で基礎知識の定着に努めている。視覚から得られる情報も重要であり、電子黒板を積極的に活用し、受験に対応できる知識・技能を養成している。さらに、身に付けた知識・技能をもとに主体的に考え、対話を通して深い学びを実現することが重要である。理解していることをどう使うか、思考力・判断力の育成に力を入れている。そのため、『なぜなのか』を生徒が考えることができるよう、授業を展開している。知識・技能を修得し、受験に必要な学力を身に付けるだけでなく、社会的事象に対する公正な視点や思考力・判断力を養成することを目指している。



数学科

粘り強く考え、問題解決の過程を振り返って考察し、数学的な考え方を養う
授業では板書を写すことに集中するのではなく、「なぜ」「どうして」と考えながらその解決方法を聞くことが大切である。自分の言葉で表現することができるよう、ノートに重要なことをまとめよう。復習は、学習内容を定着させるために大変重要である。問題が解けなかったときは、どこがいけなかったのか、どうすれば解けるのかなどを考えてみよう。じっくりと思考することで数学の力を伸ばすことができる。また、宿題だけでなく、自分で決めた課題にも積極的に取り組んでみよう。大高は「自走」できる学習集団を目指している。



理科

自ら課題を発見し、解決する能力を育む

物理 身近な現象から物理法則を見出し、学び、そして、物理の面白さを追求します。日々の授業だけでなく、高エネルギー加速器研究機構（KEK）をはじめ専門家による講座などを受講することで、真の物理力を磨く。

化学 実験や日々の生活で触れる物質を通して化学的な法則について学び、これから必要とされる物質について考え、探究する姿勢を磨く。

生物 複雑な「命」のシステムから、生命の大切さや偉大さを学び、その知識を元に、医療分野やバイオテクノロジー分野で応用できる基礎的な思考力を磨く。



保健体育科

人間力を鍛える

大高保健体育科の基本理念は、“人間力”を鍛えることである。単元活動はもとより、年間を通じた補強トレーニングを通じ体力の向上に努めると共に、人として学ぶべき道徳・礼儀の育成にも力を注いでいる。また、25時間歩き続ける85キロ強歩は、規律ある態度と相互協力の心性の育成を柱に、克己的・禁欲的なストイックさを非日常的な体験から学び取る場である。このように授業や行事を通じて心身共にバランスのとれた人間力の陶冶を図っている。



芸術科

主体的に学ぶ力、表現力、感性

1年次に音楽・美術・書道の3科目より1科目を選択する。自ら選択した音楽・美術・書道の学習を通して、まずは「芸術に対して愛好心を持ち、感性を養う」ことを最大の目標として、芸術教育としての授業を行う。必修科目は1年次のみであるが、3年次に選択によって、希望者はより発展的な内容を学ぶことも出来る。



英語科

様々な事物についての関心を高め、思考・発信する力の養成を
英語力そのものに加えて、多面的な視点と表現力を育成することを目指している。1年次は4技能をバランスよく伸ばすため、文法を中心とした基本的な知識の定着に力を入れている。2年次と3年次は、大学入試等に対応できる力を身につけるため、より高度な英語に触れさせることで、各技能のブラッシュアップを狙う。更に、ALTとの授業では、英作文やディスカッション、ディベートなどの活動を通して、より実践的な英語力の育成を行っている。



家庭科

主体的に家庭と地域の生活を創造する資質・能力を育む

家庭科では、人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などに関する基本的な知識と技能を学ぶ。また、学習した知識や技術を活用し、家庭や地域の生活課題を話し合いや発表・ディベート等の協働を通して主体的に解決する態度を身につけ、持続可能な社会をつくる暮らしの担い手を育む。調理実習や被服実習を通して体験的に生活スキルを磨く。



情報科

『目的』ではなく『手段』として情報を扱う

情報の授業ではパソコンの操作だけではなく、コンピューター等の情報機器を効果的に使いながら情報そのものをいろいろな角度から学ぶことを目標にしている。ソフトを扱いプレゼンテーションを通して表現力など総合的な力を養成していく。プログラミング学習にも取り組み論理的な考え方を養成する。情報モラルといった問題にも取り組み問題解決力や課題発見力を身につけていく。



大高の進路指導

進路状況

1 令和4（2022）年度卒業生 大学入試合格状況

(1) 大学入学共通テスト受験者	197名（昨年230名）
(2) 新卒国公立大学合格者最終延べ数（前・中・後期、独立、推薦）	116名（昨年144名）
(3) 過年度国公立大学合格者最終延べ数（前・中・後期、独立、推薦）	1名（昨年5名）
(4) 新卒・過年度国公立大学合格者最終延べ数（前・中・後期、独立、推薦）	117名（昨年149名）
(5) 主要大学の合格者数（卒業年度）	

大学名	進学年度				
国公立大	R4年	R3年	R2年	R1年	H30年
東京	0	0	3	2	0
京都	0	0	0	0	0
東京工業	1	0	0	0(1)	2
一橋	0	0	0	0	0
大阪	0	0	0	0	0
名古屋	0	1	0	0	0
東北	6	3	7	7	3(1)
北海道	0	0	1	0	0
神戸	0	0	0	0	0
東京外国語	1	0	0	0	3
筑波	2	0	4	2	2
千葉	4	3	5	0	3
埼玉	3	6	5	8	5
新潟	10	23	9(1)	11	6(1)
金沢	0	2	2	0	0
横浜国立	0	0	1	2(1)	2
東京学芸	0	0	2	1	0
東京農工	2	0(1)	0	1	0
電気通信	2	1	0	1	1
静岡	6	6	3	2(1)	0(2)
山形	10	14(2)	5	12(1)	10(1)
茨城	2	2	2	1	6
宇都宮	18	19	19	21	24
東京都立	0	0	2	0	1
その他	49(1)	64(2)	40	51	41
現役前期合格者	97(含総)	128(含総)	92(含AO)	110(含AO)	90(含AO)
現役国公立合格者	116	144	110	122	109

大学名	進学年度				
私立大	R4年	R3年	R2年	R1年	H30年
早稲田	3	2	6	2(1)	2
慶應義塾	2	0(4)	5	2(1)	3
上智	1	1	0	0(1)	0
青山学院	2	3	7	1(1)	3
学習院	0	1	1	0	2
中央	14	16	11(2)	9	11
東京理科	3	7	11	11(2)	3
法政	5(1)	12(1)	20(1)	11(1)	8
明治	7	10(2)	22(1)	4(1)	10
立教	5	3	4	2(1)	1
関西	0	0	0	1	1
関西学院	2	2(3)	1	1	2
同志社	1	0	2	1	0
立命館	3	6(1)	6(1)	1	0
駒澤	1	11	10	10	9
芝浦工業	12	28(1)	14	18	11
専修	7	3(2)	11(1)	10	6
東海	10	21	18	14	15
東洋	34(1)	14(3)	6	2	14
日本	47(1)	42(3)	33(3)	32	43
神奈川	2	7	10	10	9
国際医療福祉	16	14(1)	17	13	11
獨協医療	3	0	0	0	0(1)
自治医科	1	0	0	0	0(1)
その他	156(1)	233(7)	175(1)	165	175
現役私立大計	333	436	390	320	339
GARCH・関関同立以上の合格者数	48	63	96	46	46

() 内は過年度卒の内数

2 専門学校	3	名
3 就職	0	名

VOICE



東北大学法学部 小林 慧流
(2022 年度卒)

振り返ると、大田原高校で過ごした3年間は、とても充実していたように思います。特に仲間と切磋琢磨し勉学に励んだ時間は、かけがえないものでした。大田原高校では、意識が高い仲間とたくさん出会うことができました。はじめは、勉強についていけるか不安がありましたが、先生方からの手厚いサポートを受け、仲間と高めあい励ましあったことで、希望する進路を実現させることができました。後輩の皆さんにも、大田原高校という歴史ある学び舎で、素晴らしい高校生活を送ってほしいです。



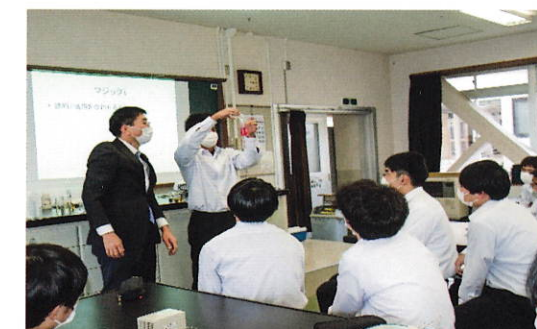
自治医科大学医学部医学科 石川 倭
(2022 年度卒)

大高の一番の魅力は、何といっても環境にあると思います。勉強面に関しては、周りの優秀な学生から刺激を受けることができ、先生に質問をすれば、自分が満足するまで真摯に答えてくれます。その他、部活動や学校行事についても同様で、何事にも本気で取り組めるような環境が整っています。大高は男子校で、馴染めるか不安に感じるかもしれませんが、入ってしまえば案外楽しいものです。是非、勉強だけでなく、部活・学校行事などにも全力で取り組み、一生に一度の高校生活を堪能してほしいと思います。

キャリア教育

出前授業

出前授業とは、大学の教員を高校に招き、大学の講義を受けられる行事です。高校生にとっては、大学レベルの学びにじかに触れることが最大のメリットといえるでしょう。また、大学ならではの講義を聞いて、受験へのモチベーションが上がることも期待できるものです。昨年度はさまざまな大学から11名の先生方を招き、1・2年生全員が、文系・理系の区別なく自分の関心のある分野を2つ選び、講義を受けました。個々の学問の基本について一から学べる講義や、理工系などでは最先端の研究内容を知ることができる講義もあり、自分がどんなことに興味があるのかなど、進路選択について改めて考えるよい機会となりました。



キャリア探訪会@オンライン

例年夏休み期間を利用して、希望者がOBの働く企業や職場を訪ねる職場見学学習会を実施していましたが、コロナ禍のため実施できなくなっていました。しかし、昨年度はZoomを用いて、1・2年生全員が自分の関心のある企業等に勤めるOBの話を聞く、キャリア探訪会なるものを実施しました。下の写真はそのPC上の画面で、全部で15名のOBのブースを設け、オンライン上でOBの方々の説明を聞いたり質問したりしました。普段では聞くことのできない、仕事に関する一歩踏み込んだ話を聞くことができ、将来の進路設計に大きく役立つものとなりました。



VOICE



東北大学工学部電気情報理工学科 鈴木 開人
(2022 年度卒)

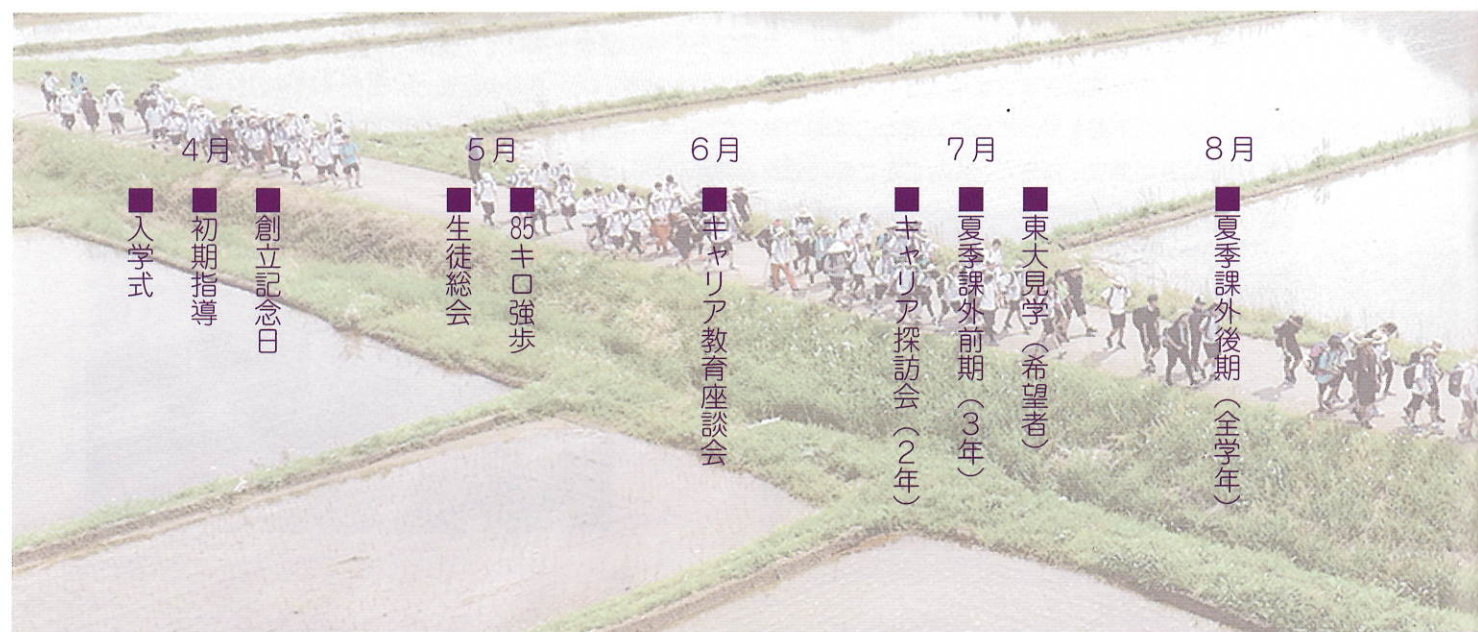
私にとって大田原高校の生活は楽しい思い出がありません。ユーモアにあふれた生徒が多く、つらい時こそ励ましあいながら勉強に全力で取り組むことが出来ました。また、生徒だけではなく先生の手厚いサポートも合格に大きく関係していると思います。わからない問題があった際には職員室やSSH室に駆け込み、問題を理解できるまで居座っていたのも今となっては懐かしい思い出です。先生に言われた通りにやり通した結果、塾なしでも第一志望に合格することが出来ました。男子校ならではの雰囲気も全力で楽しみながら、勉強も部活も頑張ってください！



東京工業大学工学院 和氣 誠朗
(2022 年度卒)

大田原高校は勉強と部活を全力で出来る環境であることは言うまでもありませんが、私が1番良かったと思うことは行事に対する熱量が半端ないということです。私たちの代の高校3年間はコロナ流行の3年間ともろ被りしてしまい行事を思い通りにやることはできませんでした。しかし、私たちが3年生の時は先生方が何としても行事を実施するぞと試行錯誤してくださり、なんと強歩や大高祭・修学旅行の実施が実現し、思い出を作ることができました。生徒だけでなく、先生方もやる気に満ち溢れており、大田原高校での3年間は必ず楽しいものになると思います。

年間行事



5月には85キロ強歩、9月には大高祭、10月には校内球技大会、1月には朝6時20分から行われる寒稽古と、仲間との絆を深め、精神力も鍛えられる行事が充実している。大高生は、何事にも手を抜かず全力で楽しむ。特に85キロ強歩の経験は、受験やその後の人生において心の支えとなっている。



大高の伝統行事

85キロ強歩

「大高」と言えば「85キロ強歩」。「強歩」と言えば「大高」。こう言われるまでに知名度も高くなってきた当行事は、昭和61年度に始まった。正門を発着点とし、生徒達を育んだ那須野が原扇状地を大きく一回りするコースを2日間約25時間かけて昼夜歩き通す、過酷な行事である。生徒達はこの行事を通して、友だちとの絆を深め、保護者の支援や地域の方々の声援に感謝し、一回りも二回りも成長していく。



寒稽古

1月大寒の時期に行われる伝統行事である。まだ太陽が昇らない早朝から稽古が開始され、薄明かりの中に吐く息の白さがひととき目立つ中、7キロの耐寒マラソンはスタートする。その他、柔道、剣道、弓道の武道3種目に生徒は汗を流す。



その他の主な行事

入学式



新入生による宣誓

創立記念講演



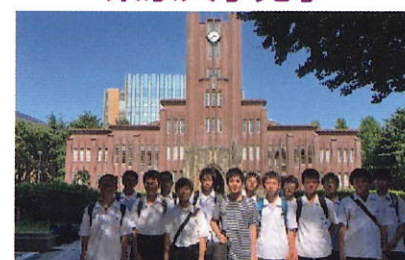
大高OBを招いての講演会

生徒総会



総会の様子

東京大学見学



東京大学キャンパス前OBと共に

大高祭



水泳部によるウォーターボーイス

校内球技大会



学年別で行われた球技大会

福祉教育講演会



福祉への理解を深める講演会

修学旅行



2年生沖縄での平和学習

卒業式



卒業証書授与

VOICE



85キロ強歩から得たこと
生徒会長 3年 佐藤 元紀
全学年にとって初めての挑戦となった4年振りの85キロ強歩は、大雨のため23キロ地点での中止となりました。完歩を志していた

私たちにとって悔しい結果となりましたが、それ以上に仲間との絆を深める貴重な時間となりました。

そして何よりも、私たちの命を守るために苦渋の決断をしてくださった先生方をはじめ、行事を支えてくださった保護者やOB、地域の方々への感謝は、決して忘れてはならないものだと感じました。



85キロ強歩を体験して
強歩委員長 3年 山岸 宏輝
私は昨年も強歩委員として活動し、4年振りの85キロ強歩となる今年こそと思い、強歩委員長を務めることを決意しました。

3年生にとって最初で最後の強歩が中止となり、完歩できずに終わってしまったことは残念でありませんが、延期や雨といった予想外の事態にも臨機応変に対応し、互いに助け合うことができました。また、この行事を経験するたび、多くの人の協力のもとに行われている場面を目の当たりにしてきました。それらへの感謝の気持ちを抱き、当たり前にあるものではないということを理解することができました。

部活動

■文化部

スーパーサイエンスクラブ（SSC） 合唱 吹奏楽 美術 青少年赤十字（JRC） 文芸
囲碁・将棋 写真 書道 英語 調理 アマチュア無線（休部） クイズ研究同好会
ヲタ芸同好会 （応援団）



（掲載写真は写真部撮影）

大会成績（2022年度）

S S C	全国物理コンテスト物理チャレンジ2022 第2チャレンジ 奨励賞 スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会 ポスター発表賞
将棋部	関東地区高等学校文化連盟将棋大会 出場
文芸	青少年読書感想文全国コンクール 高等学校の部 入選賞



全国物理コンテスト物理チャレンジ 出場
池田 康成 選手

VOICE



囲碁・将棋部 2年 岸本 京也

私は、高校生になっても将棋を続け、勉強も両立したいと考え大田原高校に入学しました。大田原高校には勉強面も部活動面も目標を持って努力している人がたくさんいます。そのような環境から刺激を受けることで将棋も勉強も頑張りたいという気持ちになります。大田原高校は仲間と共に成長することができる、理想的な環境が整っていると思います。囲碁・将棋部では自分の弱点を見つけ、徹底的につぶすことを繰り返して確実に実力を伸ばせていると思います。これからも将棋も勉強も後悔のないよう頑張っていきたいです。



SSC（自然化学班）2年 佐藤 環

私は、大田原高校に入れば国立大学に進学できる、こんな軽い気持ちで入学しました。しかし、現実とはそう甘くなく、授業のスピードも速くて周りのレベルも高く、私はみんなについていくのがやっとでした。そんな私を変えてくれたのは部活や仲間の存在でした。私は部活で物理チャレンジなどのコンテストへの参加や、さまざまな化学実験を通して、学ぶことの楽しさを知ることができました。それから、私は嫌いだっただ勉強にも真剣に取り組めるようになりました。これからも大田原の仲間と共に高め合い、努力していきます。

■運動部

陸上競技 水泳 野球 サッカー バasketボール バレーボール ソフトテニス
卓球 弓道 柔道・相撲 剣道 バドミントン 山岳 硬式テニス スポーツチャンバラ
スキー



大会成績（2022年度）

水泳	関東高等学校水泳競技大会 出場 全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 第90回日本高等学校選手権水泳競技大会 出場 国民体育大会（とちぎ国体）水泳競技 出場
柔道・相撲	関東高等学校相撲大会 出場 関東高等学校選抜相撲大会 出場
陸上	関東高等学校陸上競技大会 出場 全国高等学校総合体育大会陸上競技大会 出場 関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会 出場 関東高等学校駅伝競走大会 出場
ソフトテニス	関東高等学校ソフトテニス選手権大会 男子個人 出場 全国高等学校総合体育大会ソフトテニス競技大会 出場
スキー	全国高等学校総合体育大会 第72回全国高等学校スキー大会 出場 関東高等学校スキー大会 出場
サッカー	国民体育大会（とちぎ国体）サッカー競技 出場



全国高等学校
総合体育大会
陸上競技大会 出場
岩城 考雲 選手



全国高等学校総合体育大会
ソフトテニス競技大会 出場
渡辺 晴陽 選手（写真左）
松田 和馬 選手（写真右）

VOICE



陸上競技部 2年 渋谷 勇次

私は文武両道を実現し、希望する進路を実現するために大田原高校に入学しました。大田原高校は勉強、部活動共にレベルが高い学校だと思います。私自身も勉強に自信はありましたが、本校に入学してから周りのレベルの高さに驚かされました。その点で大田原のみなで競い合って上を目指すことのできる学校だと思います。部活動の時間が長いので、勉強時間を確保するのは大変ですが、その中でも隙間時間を有効活用して勉強することができていると思います。これからも文武のどちらでもトップに立てるように頑張っていきたいです。



水泳部 2年 阿部 匠真

私は、勉強と部活を両立したいと思い、文武両道掲げる大田原高校に入学しました。私が通う大田原高校は、県北の雄と呼ばれるほどに学習に取り組む環境が良く整っています。入学当初は徐々に授業についていけなくなりましたが、今では学習習慣の改善などもあり、学習に集中して取り組んでいます。部活動では、小さい頃から続けてきた水泳に懸命に取り組んでいます。勉強と部活のバランスをとるのは大変ですが、日々の努力を大切にしていきたいと思っています。大田原高校の仲間たちと高め合いながら、自身の目標を達成できるよう頑張りたいです。

大高の歴史

本校は明治35年、栃木県5番目の県立中学校として紫塚の地に呱呱（ここ）の声を挙げた。爾来、121年の長きに亘り、県内屈指の中学校、高等学校として、その歴史を営々として刻んできた。この間、数次の戦争や敗戦後の混乱、占領と学制改革など激動の時代にあってなお、幾多の有為の人材を輩出し続けてきた。けだし、いずれの時代にも本校は大きな期待に応えるべく普遍の理想を掲げ、多くの関係者の支援に支えられ、時に耐えつつ、着実な歩みを進めてきたのである。



（明治43年校舍全景）



（「質素堅実」の碑）

校訓「質素堅実」は、昭和12年改正の大田原中学校校歌に「雲表群立つ那須の五峰、萬古不動の崇き姿。日毎に競ひて堅實の大旆がざし雄叫びあげよ。希望の高嶺に固きは誓。みなこれ、みなこれ、大高健児の矜。」とあり、現校歌に「若き生命の感激は 紫塚の学び舎に 那須の峰々仰ぐとき 面に瞳に湧き上る 大高火ともゆる われらの理想 質素堅実」とあるように、創立以来一貫した本校生徒の理想であり、大高健児の伝統として連綿と受け継がれてきた。卒業生は2万5千人を超え、多くの分野で活躍している。



（今に引き継がれる黙想）



（教室の外部）



（明治40年第1回卒業生）



（昭和23年中大最後の門標を背にして）

各分野で活躍する卒業生



国際教養大学

前理事長・学長 鈴木 典比古 すずき のりひこ

1945年栃木県生まれ。一橋大学経済学修士課程。インディアナ大学経営大学院博士課程DBA（経営学博士）。ワシントン州立大学助教授・準教授、イリノイ大学助教授、国際基督教大学教授等を経て、2004～2012年まで国際基督教大学学長。大学基準協会専務理事を経て、2013～2021年まで国際教養大学理事長・学長。内閣官房教育再生実行会議有識者、中央教育審議会大学分科会委員、大高等教育質保証学会会長等を歴任。

＜主な著書＞『多国籍企業経営論』（同文館、1988年）経営科学文献賞、『国際マーケティング』（同文館、1989年）、『企業戦略と国際関係論』（有斐閣、1995年）、『多国籍企業と国際関係の統合理論』（国際書院、1997年）、『国際経営政治学』（文真堂、2000年）、『グローバル教育財移動理論』（文真堂、2014年）、『なぜ国際教養大学はすごいのか』（PHP新書、2016年）他論文多数。

Message

栃木県立大田原高校を目指す諸君にメッセージを送ります。高校時代の勉学は実際に教室で勉強することと自分が将来生きていく方向とが一本のレールにつながっていることを実感する初めての経験になります。その為には、自分が将来何になりたいかを想像してください。その夢が毎日の勉学を導いていくでしょう。勉強は「自分の、自分による、自分の為の投資」です。これ以上確実に高利回りの投資は存在しません。



東京大学大学院
農学生命科学研究科

教授 溝口 勝

みぞぐち・まさる

1960年大田原市加治屋生まれ。1982年東京大学農学部農業工学科卒業。1984年東京

大学大学院農学系研究科博士課程中退し三重大学農学部助手、農学博士（東京大学）、三重大学農生物資源学部助教授、1999年東京大学大学院農学生命科学研究科助教授、2003年内閣府技官（参事官補佐）併任後、2008年東京大学大学院情報学環教授を経て、2010年より現職。専門は土壌物理学・農業土壌学・国際情報農学。土壌物理学会長、農業農村工学会理事等を歴任。2011年の東日本震災以降、福島県飯舘村に通い地元農家やNPO法人メンバーと共に農業ICTを活用した福島県の農業再生のための活動が続けている。（東大農学部の前で撮影した写真。ハチ公の飼主は東大農業工学科の創始者・上野英三郎教授。）

Message

1に体力、2に食欲、3・4がなく、5にジョーク。10代にはまず、長い人生を生き抜くための体力の基礎を固める。そのために食事の好き嫌いをなくしておく。3・4は何でもよい、ただし人間は一人で生きているわけでないで人間関係を円滑にするためにジョークのセンスを磨いておくが良い。強いて言えば、3は専門、4は趣味かな。中高生時代は正義感と若い感性を大切にしながらじっくりと3・4の基礎を作ることが大切です。



海洋研究開発機構(JAMSTEC)
生物地球化学センター

上席研究員 高野 淑識

たかの・よしのり

1975年矢板市生まれ。1998年筑波大学自然学類化学専攻卒業。筑波大学大学院理工学研究科修士課程修了、横浜国立大学大学院工学研究科博士課程修了。博士（工学）。産業技術総合研究所（旧通産省工業技術院）

特別研究員、ドイツ・ブレーメン大学客員研究員、東京大学大学院理学系研究科准教授などを経て、2020年より、同センター長代理・有機分子研究グループリーダー。現在、アメリカ航空宇宙局（NASA）招聘研究員、慶応義塾大学大学院特任准教授を兼任。2005-2006年南極地域観測隊。専門は、地球宇宙化学、地球生命科学、地球惑星科学。中世の大航海時代、ハイリスクな航路開拓に挑戦したマゼラン、ガマ、コロンブスらの冒険家は、莫大な投資に対して、「わずかに持ち帰った胡椒（こしょう）」で、瞬時に大航海の冒険を成就させました。ピンセットで一つひとつ黒い胡椒をつまんで調べたという逸話もあります。「はやぶさ2」プロジェクトは、炭素質小惑星「リュウグウ」からのサンプルリターンを成功させ、『太陽系大航海時代』を独走しています。この第一級のサイエンスに携わる発端は、高校時代の「化学」好きから始まりました。有機地球宇宙化学者として大変な幸運です。ワクワクする冒険、日々新たに、日々前進します。

Message

みなさんには、どんな「夢」がありますか。夢をノートや日記に、ぜひ書いてみてください。次に、その夢を周りに語ってみてください。周囲に誠意と感謝をもって接すれば、親身に助言をくれたり、自分が気付かない盲点を指摘してくれたり、温かくエンカレッジしてくれたり、きっと切磋琢磨できる良い関係を築けることでしょう。そして、いつしか、その夢は、本当に「現実」になります。若い時期の「好きこそものの上手なれ。」×「鉄は、熱いうちに打て。」は、足し算ではなく、エキサイティングで、貴重な「かけ算」の進化形です。人生一度きり。思いっきり世界で勝負してみませんか。